

週刊佳字

2018年(平成30年)3月19日号
NO. 2805 (毎週月曜日発行)

の融資締め付け。税制改正で相続税の課税対象が広がったことによりアパート経営に乗り出す人が増え供給過剰と言われている。人口減少による地方物件の空室リスク上昇もあって金融厅が監視を強化しているのは皆さんもご存知の通り。

CFネット流 新・大家実践塾

9

シェアハウス・サブリース問題

融資が随分厳しくなったという話は聞いている。しかし、ついに首都圏でもその風を本格的に感じるようになり、仕入れをメー
ンに行っている不動産業者などから最近の融資事情に聞いて相談を受けることも先日、ある投資家のことを金融機関に相談したことだ。去年の秋、さるまこと積極的に取り組む話し合つたが、今年に入り物件を持ち込み融資のをするところと驚きの審査結果返ってきた。

アパートローン締め付け開始
融資姿勢はさらに厳しく?

多くなった。
日銀によると、2017年7～9月期のアパートローンの新規融資額は20・5%減の8591億円。同年1～3月期は0・9%減、翌4～6月期は14・4%減で、マイナス幅が拡大した。
それは物件価格に対しても、自己資金3割投入、さらに所有している自宅とアパート2棟を共同担保に入れてほしいとのこと。

かかる」ことにもなりかねない。
最近、大きなニュースにもなったかぼちゃの馬車のシェアハウス・サブリース問題。1000億もの被害を受けることになるかもしれず、さらに審査のハードになるかもしない。
もないので、金融機関の審査をクリアするのはハードルがかなり高いと感じる。無理に土地を高値で仕入れた建築業者などは、これから苦戦を強いられることがあるかもしない。

執筆者である河崎洋樹氏の
顔写真ではなく、譲って今
週執筆者の山内真也氏を掲
載しています。

訂正
3月12日号「CEFネッツ
流・新・大家夷残塾」は、

A black and white portrait photograph of a man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

シエアネツツ
鎌倉本
店 山内真也

ますます金融機関の融資